

農政の動き 2015年9月24日～10月2日

◇10～12月期の配合飼料供給価格は据え置き◇

J A全農は、2015年10～12月期の配合飼料供給価格を7～9月期の価格に据え置くと発表した。原料コストの上昇が小幅なため。トウモロコシのシカゴ相場は底堅く推移し、大豆かすの国内価格は輸入価格下落で値下がりを見込む。海上運賃は弱含みで、外国為替は一進一退と予想する。(9月24日)

◇安倍首相 引き続き「経済最優先」◇

自民党総裁選での無投票再選を受け、安倍晋三首相は党本部で会見し、アベノミクスの第2ステージとして「強い経済」「子育て支援」「社会保障」を核とした「新3本の矢」に全力を尽くすと表明した。「経済最優先」で政権を運営し、国内総生産(GDP)600兆円の達成を目標に掲げた。(24日)

◇15年産米の1等比率は72・9%(8月末現在)◇

農林水産省は、2015年産の水稲うるち玄米の1等比率は8月31日現在で72・9%と発表した。前月末比5・9ポイント上がったが、前年同期比では3・7ポイント低い。2等以下への格付け理由は、着色粒(カメムシ類)が43・6%、心白と腹白が17・1%、整粒不足15・0%、充実度14・6%など。(24日)

◇10～12月の平均気温 平年並みか高く◇

気象庁は、10～12月の3カ月予報を発表した。平均気温は北・東・西日本で平年並みか高く、降水量は北・東日本太平洋側と西日本で平年並みか多い。(10月)全国的に天気は数日の周期で変わる。気温は北日本で平年並みか高い(11月)北・東・西日本太平洋側は、平年に比べ晴れの日が少ない(12月)西日本日本海側は、平年に比べ曇りや雨・雪の日が多く、北・東・西日本太平洋側では、平年に比べ晴れの日が少ない。(25日)

◇8月24～26日の暴風雨災害 局地激甚災害に◇

政府は閣議で、8月24～26日の暴風雨災害を局地激甚災害に指定した。三重県多気郡大台町と紀北町で農地・農業共同利用施設などの復旧事業への国の補助率かさ上げなどを措置する。(28日)

◇農業資材審議会 機械化分科会が中間論点整理◇

農林水産省の農業資材審議会農業機械化分科会は会合を開き、中間論点整理をまとめた。今後の機械化政策の展開方向の柱として①開発・改良・普及②コスト低減③農作業安全対策の推進——の3点を挙げた。担い手ニーズを開発に吸い上げる仕組みの構築や、コスト低減に向けた低価格機の導入および部品の削減・共通化、事故情報の収集・分析体制の強化について強調した。今後、主な論点を踏まえて検討を進め、農業機械化促進法に基づく基本方針や農研機構の中期目標などに反映させる。(29日)

◇15年産小麦の収穫量 都府県は10%減◇

農林水産省は、都府県の2015年産小麦の収穫量は、前年産比10%減の27万2400トンと発表した。作付面積は1%増の9万500ヘクタールだが、東海以西での天候不順の影響で、10アール

当たり収量が11%減の301キロとなった。(29日)